



市長 山本 浩章

「狭い日本そんなに急いでどこへ行く」こんな安全運転の啓発看板をかつては至るところで見かけました。しかし、領土面積約37万8千平方キロメートルは、200近くもある世界の国(自治政府や属領を含む)の中で61番目の広さであり、決して「狭い日本」ではありません。

海の面積となるとどうでしょう。領海とEEZ(排他的経済水域)を合わせた面積は、447万平方キロメートルとなり、なんと世界第6位に躍り出ます。また、日本近海は海底が深い部分が多く、領海とEEZの水の体積は、1億5千8百立方キロメートルもあり、実に世界第4位となります。我が国は世界有数の海洋国家なのです。

海に囲まれた我が国ならではの童謡が「われは海の子」です。「我は海の子白浪のさわぐいそべの松原に」と始まるのどかな1番から3番の歌詞がよく知られていますが、もとも

とは7番まである長い歌でした。6番は「浪にただよふ氷山も来らば来れ恐れんや、海まき上ぐるたつまきも起らば起れ驚かじ」、7番は「いで大船を乗出して我は拾はん海の富、いで軍艦に乘組みて我は護らん海の国」と、漁業だけでなく、おそらく貿易、海運、さらには海軍についてもよみ込んだ勇壮な歌詞となっていますが、現在はここまで歌われることはあまりないようです。

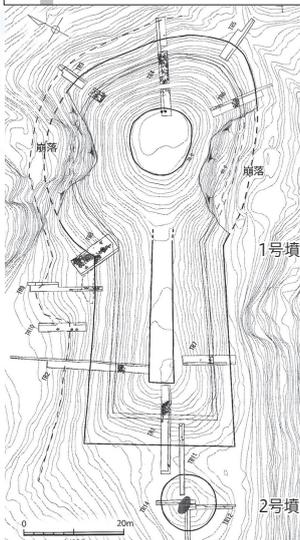
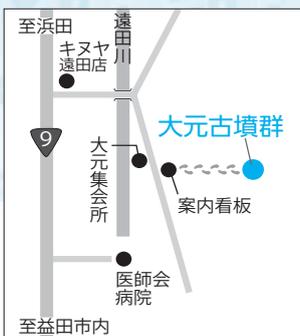
「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国家日本の繁栄を願う」日とされる「海の日」が休日となったのは平成7(1995)年のことでした。明治9(1876)年に東北地方を巡行された明治天皇が青森から函館経由で横浜まで船に乗り帰着された日にちなみ、当初は7月20日に固定されていましたが、その後、ハッピーマンデーとするための法律改正により7月の第3月曜日となりました。今年に限って7月23日木曜日に移動されたのは、残念ながら延期となった56年ぶりの東京オリンピックの開会式がその翌日に予定されていたからでした。

※任期の区切りにあたり、次回の本欄は休載とします。平素のご愛読に改めて感謝申し上げます。

益田市の文化財の紹介

第10回 おおもとこふん 大元古墳(遠田町)

【問い合わせ先】 市文化財課 ☎ 31-0623



国指定史跡の大元古墳は、遠田町の大元集会所正面の標高約60mの山頂部に位置しています。鍵穴形をした前方後円墳(1号墳)と円墳(2号墳)の2基が確認されています。大元1号墳は長さ85mを誇り、石見地方でも最大級です。市では、平成27～29年度にかけて墳丘の大きさなどを正確に把握するための発掘調査を行いました。その結果、1号墳は、後円部が歪な円形であること、上段の斜面を石で覆っていること、大部分がもともとの山から削り出して古墳の形を造っていることなどが分かりました。特に注目されたのが、1号墳の後円部墳頂の端から埴輪の列を検出したことです。これは石見地方初の発見でした。

名称	大元古墳
読み	おおもとこふん
指定種別	国指定文化財 史跡
員数	1所
所在地	益田市遠田町
年代	古墳時代前期末 (西暦400年頃)
指定年月日	令和2年3月10日

出土した埴輪のほとんどが、円筒埴輪と呼ばれる土管のような形をしたものでした。長い年月、風雨にさらされたためか、どれも割れていますが、それでも埴輪から得られる情報は大変貴重です。その特徴から大元1号墳の築造が古墳時代前期末頃であることがわかりました。以上の成果によって、大元1号墳に眠る人物は、その古墳の形・大きさから、益田地域の首長と考えられます。そして、「埴輪」というそれまでの益田地域には無かった新しい文物を取り入れた背景には、この首長が他地域との繋がりを広く持っていた人物だったからと想像できます。

このように益田地域の歴史は もちろん、古墳の発信源であるヤマト政権の影響範囲を知るうえで重要な古墳と認められ、令和2年3月に国の史跡に指定されました。